

木質バイオ発電所始動

秋田市向浜 ユナイテッド社整備



発電所の完成を祝いテープカットする関係者ら

ユナイテッドリニューアブルエナジー(秋田市、平野久貴社長)が秋田市向浜で整備を進めていた木質バイオマス発電所の完工式が15日、現地で行われ、関係

者ら約130人が完成を祝った。最大出力2万ワットは東北最大規模。今年2月から試験運転を重ね、今月1日に本格操業を始めた。

東北最大級2万ワット

発電所は2014年11月に「プロジェクトファイナンス」着工。約2万8千平方メートルの敷地に、高さ約50メートルの13階建てボイラーを整備した。総事業費は約12.5億円。北都銀行や新生銀行など九つの金融機関や民間企業が、事業による利益のみを返済原資に充てる

電している。年間売上高見込みは43億円。ユナイテッド社のバイオマス発電は、ボイラーで木質チップやパームヤシ殻(PKS)を燃やして発生させた高温高压の蒸気を使い、タービンを回して発電する仕組み。燃料となるスキなどの木質チップは、県内の9森林組合・素材生産業者から年約11万5千トン調達するほか、PKSはインドネシアとマレーシアから年約5万トン輸入する。完工式では神事に続き、平



現地では木質チップ乾燥設備(左)などを巡る見学会も開かれた

野社長が「再生エネルギー事業者としての自覚と誇りを持ち、秋田産電力の供給に努めたい」とあいさつ。中島英史副知事が平野社長に県の誘致企業決定通知書を手渡した後、関係者がテープカットを行った。式終了後は見学会も開かれ、ユナイテッド社の社員らが、管理棟や木質チップの乾燥設備などについて説明した。(棟方幸人)